

令和3年度市政懇談会 主な意見

開催日： 11月15日(月)

会 場： 和田コミュニティセンター

1. 地域の防災

項目	参加者の発言	市の発言
防災体制	<ul style="list-style-type: none"> ・和田地区は、自主防災会ではなく、各常会の防災委員が運営委員として参画する「和田安全ネットワーク」という組織を立ち上げ、地域全体のために運営をしている。和田安全ネットワークの会費として、全住民から1世帯当たり千円をもらい、防災に関する講演会への補助や、児童の登下校時の見守りジャンパーなどに活用している。また、消防団と和田安全ネットワークは、自治連合会と連携し、年一回、和田地区の全住民を対象とした防災訓練を行っている。 ・ある程度水位が上がれば、和田地区の対策本部を立ち上げ、消防団と情報共有を行いながら、活動計画を立てる。 ・防災委員は常会ごとに任期があり、引継ぎが課題となっている。 ・和田地区にある16常会ごとに防災委員を配置し、高齢者の状況や危険箇所などを地域で把握している。また、各防災委員には無線1台を配布しており、対策本部の立ち上げ後は、状況報告など情報のやり取りを行っている。 ・本部や和田安全ネットワークは、民生委員と連携をして、見守りのために、許諾の上、要支援者の情報を持っている。 ・自主防災は、行政だけがやるべきことではなく、基本的には、地域に住む自分たちがやることであると考えて取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年は、大雨が長期化したため、避難所の開閉設について、市職員だけでは対応が困難であった。現在、自主防災会など地域の皆さんと連携し、事前防災や災害時の初動業務について、シミュレーションをさせていただいている。今後、避難所のあり方や防災の取組などについても、和田安全ネットワークと意見交換をさせていただきたい。 ・地域に合った自主防災のあり方を構築することが理想的であり、和田地区の取組は参考になる。 ・普段からの日常生活のつながりは、地域の状況を把握でき、防災時の強みとなる。 ・要支援者への対応が課題であり、今後、運用方法等について相談させていただきながら、進めていく。和田地区のように、要支援者対応の素地ができていれば、要支援者へのアプローチがしやすいと思う。 ・和田地区の自主防災組織による、要支援者への取組は、基本的にできていると考える。会議の中で、他地域の方々へ、和田地区の取組について意見交換をしていただけたらと思う。
地域における危険箇所の把握など	<ul style="list-style-type: none"> ・国兼川は水位が上がる。また、馬洗川の水位が上がると、国兼川から馬洗川に水が流れなくなり、特に、下組地区などが冠水する。 ・寺町あたりにある砂防池から旧和田保育所に向けて水が出てくるので、土嚢を使用している。県と市との連携のもと、急傾斜地を2か所ほど削ってもらった。 ・治山事業で、法切りや法砕工の設置をしてもらった。また、埋墳センターによる古墳2基の発掘調査では、太刀が出土し、今春、事業が完成した。 	<p>災害リスクの高い箇所については、地域で把握をされており、細心の注意を払われている。</p>
避難所	<ul style="list-style-type: none"> ・和田地区はハザードマップに指定されている箇所が多く、基幹避難所の和田コミュニティセンターも指定されていたことから、基幹避難所を和田小学校に変更した。しかし、向江田地区や和知地区などから基幹避難所まで距離があること、国兼川沿いを通って避難することから、基幹避難所に避難するよりも、地域の補助避難所が大事になると思う。補助避難所は集会所が多く、エアコン、水道、電気もあって便利で安全であるということで、補助避難所に避難されている。 ・防災委員が補助避難所の開閉設をするとともに、地域内の巡回を行い、本部と情報共有をしている。 ・佐竹医院の近くにある元専門学校の体育館を避難所に活用できるようにしてもらっている。 	<p>-</p>
ため池の管理	<ul style="list-style-type: none"> ・農業に携わる方が少なくなり、ため池の管理ができなくなっている。ため池が決壊すると、住家などに被害が発生するという懸念がある。 ・以前、和知町の二ツ池が決壊し、民家に影響はなかったが、田んぼがかなり浸かった。人命にかかわることであるから、頭に入れておいてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他の地域でも、ため池のリスクについて懸念されている。ため池を、これまでのような農業用水としての活用ではなく、事前防災のために活用する動きもある。登記されていないため池の整理を行うとともに、県と連携し、危険度の高いため池から工事をするように計画している。 ・水が漏れているなど心配な箇所があれば、市に情報提供してほしい。現地確認を行い、県と連携して、対処していく。 ・廃止ため池の対策は、大きな課題として認識しており、県の事業としても行っているが、数も多く、すぐには進まない。また、県は、ため池防災マップを作成し、ホームページに掲載している。 ・平成30年豪雨の際、西三次の使用していないため池が決壊し、その土砂が芸備線に流れ込んで、当分の間不通となった。
井堰の管理	<ul style="list-style-type: none"> ・国兼川には、ラバーのゴム堰が6つぐらいあり、地元で管理できなくなるおそれがある。県から一時的な維持費が出ているが、大きな修繕が出た場合は、行政の補助をするなど検討してほしい。県の主導でコンクリート井堰をゴム井堰に替えてきたことから、修繕費用について、県と協議してほしい。 ・和知町で冠水したことがあるが、破れたゴム堰に水が入り、それが膨れて、水を堰き止めたことが原因である。どうしても亀裂が入ったりして壊れることがある。 	<p>今後の課題として、県とも協議をする。</p>

令和3年度市政懇談会 主な意見

開催日： 11月15日(月)

会 場： 和田コミュニティセンター

2. 持続可能なまちづくりについてなど

項目	参加者の発言	市の発言
オリジナルコーヒーの開発	和田オリジナルのコーヒーを作っているところである。豆から選別をして、講師から淹れ方やブレンドについて習っている。なお、和田地区の水を使用することなどを考えている。また、コーヒーの紙コップには、公募作品の中から、住民による投票の結果、選ばれた小学5年生のデザインが描かれている。	地域づくりの一つであり、素晴らしいと思う。
寺町廃寺跡の活用	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくりビジョンに掲げているように、寺町廃寺跡を一つの拠点にして、活力あるまちづくりをしたいと考えている。現地は草が生い茂り、整備されていないので、和田自治連合会としては、今後、発掘調査した箇所に、来訪者のために看板や案内板を設置しようと考えている。発掘調査の結果を受けた、簡単な状況説明の提供について、市教育委員会と調整してほしい。 ・地元の方が、ボランティア活動として、寺町廃寺跡と大当を結ぶ道を整備し、ガイドとして歩いていただいている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今回、文化庁に発掘調査の内容を精査していただいております。今後の事業展開を検討するにはまだまだ時間がかかる。ただ、確定したものを残すわけではなく、全体像がわかるような簡単な説明を記載するという点であるので、市教育委員会と協議をする。 ・和田小学校では、寺町廃寺を活用した生涯学習をされている。
自治連合会の事務局	今後、各自治連合会の事務局を引き受ける人が少なくなるという懸念がある。退職された市職員を再任用して、自治連合会へ派遣することはできないのか。行政との関わりがある事業も増えているので、検討してほしい。	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでも、19自治連合会の皆さんには、自分たちのまちをどうにかしなければならぬという意識を持っていただいております。市としても、柔軟な対応をしなければと思う。ただし、市職員も十分にいないというわけでもないで、検討させていただきたい。 ・支所がある地域は支所が、旧三次は地域振興課が関わらせていただいております。今後も同様にサポートする。どのようなあり方がいいのかは、課題として認識している。
移住・定住	<ul style="list-style-type: none"> ・ここ数年で、8軒の移住があった。市外からは2名、その他は和田地区以外の市内から移住された。和田地区は、集落支援員が活発に活動をされている。 ・移住者と市長との懇談について調整させてほしい。 	平成30年には9名の社会増があったが、それ以降は社会減となっている。集落支援員の活動によって、定住や関係する人口に関する可能性が変わってくるという印象を受けている。
教育	和田小学校の児童は75名であり、和田地区以外の児童も通っている。年々、児童数が減少している。	和田地区に限らず、少子化は進んでおり、学校のあり方や地域のあり方に課題が出てくることを踏まえて、コミュニティスクールを計画している。来年度は、モデル地域において、地域と学校とが連携した取組を開始し、ほかの地域に広げていく予定である。今後も、情報提供させていただく。